

# わかやま母親通信

第 108 号 2023 年 10 月 3 日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通 3 の 20 和歌山県教育会館内  
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w\_haharen@wkn.or.jp

生命を産み出す母親は  
生命を育て  
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

## 第 68 回日本母親大会(11/25~26)に、和歌山から 28 人参加

今年の日本母親大会(in 山口)に、和歌山県から参加者 28 人(子ども 1 人、実行委員 1 人を含む)が参加します。久々の集団参加ですね。また、全体会については、各郡市で、オンラインのサテライト会場を開設します。最寄りの会場にご参加ください。



### 明日へ

9 月 9 日に来年の日本母親大会に向けて、現地実行委員会準備会が開催され、9 月 14 日の近畿ブロック母連運営委員会でも、記念品(販売物品)などについて話しわれたり、一気に準備が動き出しました。

このコーナーでは、「大会のしおり」に掲載される

『**和歌山の歴史—女性たちのたたかい**』原稿案を掲載していきます。

#### 第一回

#### 戦前の農民運動、労働運動、反戦、自由と民主的権利を求める運動

明治維新の天皇制政府による支配下で、貧困に苦しむ庶民たちは抗議運動を起こします。

明治 9 年、不当な地租改悪に反対した粉河の農民一揆、M15 年には、県下最初の労働運動といわれる和歌山市の木挽工 300 人のストライキ、さらに、新宮の石炭夫、日高の製材労働者、黒江の漆器職人と、各地で組織的な争議が広がりました。また、田辺の「牟婁新報」は日露戦争批判論を唱えるなど、この頃の自由民権運動や片山潜たちの社会主義運動の影響が色濃くあったでしょうが、その風潮の中で、佐藤春夫(作家、詩人)や石垣栄太郎(画家)ら目覚めた文化人も輩出されました。

こうした活動に重大な打撃を与えたのは 43 年の大逆事件でした。「天皇暗殺を企てた」とするでっち上げで、幸徳秋水、菅野スガとともに、親交のあった新宮の大石誠之助ら 2 名が処刑され、4 名が無期懲役にされました。

この事件によって、諸運動は「冬の時代」となりますが、大正期になって、6 年にロシア革命が起こった影響で、全世界で、そして日本でも新たな労働運動や民主化運動が始まります。

(2 ページへ)

全国的に広まったT7年の「米騒動」は、和歌山県下でも、湯浅の漁家の主婦らが米価値上がりに抗議し米屋に押しかけたのをきっかけに「騒動」は28か所に及びました。

労働組合が各地で結成され、労働条件や賃上げを要求して争議を起こしました。T12年には、和歌山市の紀陽織布の婦人労働者数100人が争議に決起します。この年、和歌山県初のメーデーも、150人の参加で決行されました。

こうした運動の高まりの中で、T14年には男子による「普通選挙法」が制定されますが、あわせて「治安維持法」も制定されました。この野蛮な悪法は、昭和3年には「最高死刑」を加え、共産主義運動だけでなく、平和・民主主義・労働運動、文化・宗教活動に至るまで徹底的に弾圧し、侵略戦争への道を準備しました。

国賠同盟県本部の調査によれば、和歌山県での検挙者は318名、内女性は38名でした。獄死した3名の中で、粉河在住の北林トモさんは、夫と渡った米国での活動や東京・地元粉河での行動が疑われ、5年の刑で服役中に発病し、仮出所の2日後に死亡しました。獄死に等しい状況でした。

(次号に続く)

次号は、戦後の諸運動です。



## 9/2(土) 和歌山市母親大会の講演から

「憲法 平和 そして、寅さん会」 講師;西本三平氏(寅さん会)

…西本三平さんは、…**憲法**については、1931年の満州事変に始まり、1945年の無条件降伏までの15年に及ぶ戦争の後、新しい憲法ができるまでの話、明治憲法との比較や従軍されたお父さんの話も、少し話されました。

**歴史**のところでは、同級生に「金一海」がいたが、父親から「あの子は臭いし、汚いから近寄るな」と言われていたので、みんなで相手にしなかった。その人は、中学卒業まで学校に来なかった。大学生になって、初めて朝鮮人の強制動員があったという歴史を知り、知らずに過ごしてきたことを後悔して、金さんがその後どうなったか、捜してみたが見つけれなかった。ある時、新聞で、金さんが工事中に亡くなった記事を読み、鳴神に住んでいたことを知った。当時50代だった。「天国で会えたら謝罪する」とずっと思い続けていると。そして、三平さんの「歴史を知って行動しよう」の呼びかけに共感しました。

最後は、**寅さん会**。ある時、山田監督の話聞く機会があり、「上から目線ではなく、社会の片隅で必死に生きている人たちに温かいまなざしを向けている」と感じた。教師として、教え子に心を寄せることを教えてもらった。監督へのお礼は、多くの人に劇場に足を運んでもらい、地域の店を応援して町の活性化を図ることだと思っている。これが私の「真剣なあそびです」と結ばれました。(Y.K.)